

5 徳島県立文学書道館 事業実績

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業などに生かし、広く県内外の人々から利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図った。

(1) 顕彰、表彰事業【経費 1,289千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	第14回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図った。今年度は、小説20人、脚本4人、文芸評論7人、児童文学18人、随筆64人、現代詩347人、短歌452人、俳句797人、川柳148人、連句31人の計1,888人から2,683点の応募があった。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、紹介した。</p> <p>表彰式:平成29年2月11日 応募者数:1,888名 応募作品数:2,683点 会場:ギャラリー</p>	1,288,436	0
	小計		1,288,436	0

(2) 年鑑編集・刊行事業【経費 324千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	ことのは文庫 森内俊雄「みちしるべ」	<p>1997年2月から2001年3月にかけて、毎月2回、計100回にわたって徳島新聞に掲載されたエッセー「みちしるべ」を収め、ことのは文庫の1冊として発行した。</p> <p>文庫本サイズ 1,000部 販売価格:400円</p>	324,000	0
	小計		324,000	0

(3) 教育普及育成事業【経費 1,725千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家、研究者、文化人に専門分野のお話をしていただき、平和で心豊かな社会の創造について考える講座。児童文学研究者の谷悦子氏、グラフィックデザイナーの板東孝明氏、夢ホール市民協議会・夢づくりあなん理事の林翠氏、浄瑠璃人形遣いの勘緑氏を迎えた計4回の講座は、各講師の専門家ならではの見識と豊富な経験に学ぶところが多く、いずれも充実したものとなった。</p> <p>日時:平成28年4月～7月(全4回・各土曜) 受講者数:140名 受講料:無料 会場:講座室</p>	237,206	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
2	文学講座 言の葉テーマ朗読会	<p>展覧会に即したテーマと反戦にちなんだ朗読会を行った。5月「寂聴作『道具』を読む」、8月「反戦」、9月「森内俊雄作品を読む」の計3回。講座生がよく内容を読み込み、伝わる朗読ができた。</p> <p>日時:平成28年5月～9月(全3回) 受講者数:95名 受講料:無料 会場:講座室</p>	0	0
3	文学講座 現代文学を読み解く	<p>文学作品が難解になりつつある中、話題の作品を読んで感想を語り合う講座。吉村萬壺『ボラード病』、高橋弘希『指の骨』、川上未映子『あこがれ』、羽田圭介『スクラップ・アンド・ビルド』、村田紗耶香『コンビニ人間』の5作品を取り上げた。受講生それぞれが自分の経験から多様な読み方をして、活発に意見を交わした。違った視点からの読みを知ることで、より作品に深く触れることができたようだ。</p> <p>日時:平成28年5月～平成29年1月 (全5回・各土曜) 受講者数:65名 受講料:無料 会場:講座室</p>	150,000	0
4	文学講座 映像と文学	<p>文学と結びつきの強い映画作品を取り上げ、映像を見ながら原作との表現の違いなどを紹介した。「ティファニーで朝食を」「華麗なるギャツビー」「モモ」「ブリキの太鼓」「パリ、テキサス」「ベルリン天使の詩」の6作品を鑑賞し、講師が文学の手法や理論と比べながら解説。より深く作品を理解することができた。</p> <p>日時:平成28年6月～11月(全4回・各土曜) 受講者数:150名 受講料:無料 会場:講座室</p>	60,000	0
5	文学講座 若い人たちのための 小説家養成講座	<p>文芸誌の新人賞に応募して作家デビューを目指す小説の実作講座。講師は三田文学新人賞を受賞した作家の佐々木義登氏。現代文学に求められていることや小説を書く基本を講義するとともに、受講生が書いた作品を受講生と一緒に講評した。前年度からの受講生のうち数人が新人賞に応募し、高田友季子さんの「渇き」(「名前のない季節」改題)が三田文学新人賞佳作に選ばれた。</p> <p>日時:平成28年8月～平成29年3月 (全9回・各土曜) 受講者数:116名 受講料:無料 会場:講座室</p>	234,000	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
6	文学講座 親子で楽しむ絵本づくり	<p>県南に移り住み、多くの優れた絵本を生み出している梅田俊作・佳子夫妻を講師に迎え、飛び出す絵本づくりの基礎を学んだあと、折り紙や絵の具で自由に絵本づくりを楽しんだ。仕上がった絵本は1階ロビーに展示した。</p> <p>日時:平成28年8月21日、28日(全2回・各日曜) 受講者数:51名 受講料:無料 会場:実習室</p>	113,264	0
7	第15回言の葉朗読会	<p>自分の好きな文学作品を5分以内で朗読する、年1回の朗読会。今年は12組18人が朗読した。また、15回記念として、NHK日本語センターの伊藤文樹氏を講師に迎え、朗読していただき、会の終了後、講評していただいた。出演者たちは「新たな課題を得てうれしかった」などの感想を寄せてくれた。</p> <p>日時:平成28年9月24日(土) 受講者数:58名 受講料:無料 会場:講座室</p>	98,204	0
8	秋の文学講演会 「大地に揺らされた文学」	<p>東日本大震災から5年を経て、「震災と文学」について考える講演会。講師に福島県郡山市出身の作家・古川日出男氏を招き、「大地に揺らされた文学」という演題でお話しいただいた。氏は、東北の地震に対する文学者としての思いを語り、自作の朗読も行った。震災後に氏が展開してきた鎮魂ライブや、故郷・郡山で開校した「ただようまなびや 文学の学校」への思いも知ることができた。</p> <p>日時:平成28年11月20日(日) 受講者数:28名 受講料:無料 会場:ギャラリー</p>	235,537	0
9	書道講座 かなを学ぶ いろは歌	<p>いろは歌(48字)を用いて、かなの基本である「单体」を学んだ。いろは歌と基本用筆の説明の後、各自が練習した。受講生の大部分は初心者で、わずか3回の講座だったが、講師の指導で上達した。講座修了時には、いろは歌を半紙に仕上げ、1階ロビーに展示した。</p> <p>日時:平成28年6月(全3回・各日曜) 受講者数:40名 受講料:無料 会場:実習室</p>	54,000	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
10	書道講座 書道創作講座 楷書	<p>創作講座の1回目、楷書。初めに古典の鑑賞と臨書によって、創作のベースになる書を学んだ。取りあげた古典は、薦季直表、爨宝子碑、泰山金剛経、牛橛造像記、九成宮醴泉銘、良寛、中林梧竹、手島右卿、赤羽雲庭、井上有一など。また書道常設展示室で開催中の「中林梧竹の楷書」を鑑賞した後、各自好きな作風で半紙に創作した。作品は1階ロビーに展示した。</p> <p>日時:平成28年7月(全3回) 受講者数:44名 受講料:無料 会場:実習室</p>	0	0
11	書道講座 カレンダーを作ろう	<p>A4サイズ(縦)の紙に自作の書を入れたカレンダーを作製した。講師の参考例を基に製作する受講者もいれば、字典や句帳を持参し、よりオリジナリティーの高い作品を目指す人もいた。練習した後清書し、1年分のカレンダーを完成させることができた。講座修了後に作品を提出してもらい、1階ロビーに展示した。</p> <p>日時:平成28年10月22日、23日(全2回) 受講者数:17名 受講料:無料 材料費実費 会場:実習室</p>	39,440	0
12	書道講座 絵手紙の創始者 小池邦夫講演会	<p>講師は1978年に東京・狛江で絵手紙教室を開催し、後に日本絵手紙協会を創設するなど、絵手紙の草分けとして知られる小池邦夫氏。18歳頃から毎日、親友に手紙を送ることによって、自分の心が出せるようになったことなど、自身のこれまでの歩みをお話いただいた。</p> <p>関連事業として、小池氏の墨色をテーマとした初めての作品展「絵手紙の創始者 小池邦夫の絵手紙展—墨色の魅力—」(会期11月8日～19日、1階ギャラリー、観覧無料)を開催した。親友の水墨画家・正岡千年氏に宛てた絵手紙24点を展示。徳島をはじめ全国から690人の観覧者が訪れ、大変好評であった。</p> <p>日時:平成28年11月13日(日) 受講者数:430名 受講料:無料 会場:あわぎんホール</p>	358,655	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
13	書道講座 新春 書き初め 大字に 挑戦!	小学生を対象に、伝統文化の「書き初め」にちなんで、特大筆(全長46cm、穂の長さ14.5cm×穂の直径4cm)と68cm×70cmの紙を使って、大字作品を制作する講座。はじめに書き初めの由来や、筆の持ち方、書く姿勢などを説明。約1時間、各自が書きたい漢字一字を、墨をたっぷり含んで重くなった筆で、体全体を使って揮毫した。最後には迫力のある大字作品が仕上がり、作品は1月中ロビーに展示した。 日時:平成29年1月7日(土) 受講者数:40名 受講料:無料 会場:実習室・講座室	46,776	0
14	書道講座 初めての絵手紙	谷眞理さん(日本絵手紙協会公認講師)が指導した。「へたでいい(へたがいい)、ぶっつけ本番、手本なし」が絵手紙。描く際のポイントは3つで「①絵の輪郭線をゆっくりと描くこと(1分でわずか10cm程度)。筆の最上部をつまみ垂直に立てること ②絵をはみだすように大きく描くこと ③色はベタ塗りせず白を残すこと。色が濁るのであまり混ぜないこと」。その後、ハガキ、大判ハガキ、半切1/3の3枚を制作し、大判ハガキをロビーに展示した。 日時:平成29年1月(全3回) 受講者数:64名 受講料:無料 会場:実習室	54,000	0
15	書道講座 楽しい表具 裏打ち	自宅で自作を容易に表具(裏打ち)するための講座。用具は手軽に安価に入手できるものとし、大きさは①ハガキ大②色紙大③半切2分の1の3種類とした。①と②は裏打ち後に枠装し、さらに①については当館ロビーに展示した。 日時:平成29年3月8日、9日(全2回) 受講者数:26名 受講料:無料 会場:実習室	43,230	0
	小計		1,724,312	0

(4) 展示事業【経費 17,261千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和ませる日本庭園を設置している。年4回の展示替えも行った。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	0	常設展観覧料に含む

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島にゆかりの深い文学者とその作品、徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から感じとれる展示としている。展示室内では、年2回の文学収蔵品展として「貴司山治と小林多喜二」、「三田華子『阿波狸列伝』」を開催した。 期間:通年 会場:文学常設展示室	0	常設展観覧料を含む
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して展示している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する展示を行った。 期間:通年 会場:収蔵展示室	0	常設展観覧料を含む
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの書家を中心とした豊かな書の世界が広がる展示室。年3回の展示替えを行い、収蔵している豊富な作品などを幅広く紹介している。本年度は「徳島ゆかりの書Ⅱ」「新収蔵の書Ⅱ」「貫名菘翁」を開催した。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	0	常設展観覧料を含む
5	文学特別展 寂聴対談展 (特別展示事業)	瀬戸内寂聴の50年間に行った30人との対談を取り上げて紹介した。自らの生き方、文学、社会のあり方について、真摯に、またはユーモアを交えて語り合う話の一部を抜粋し、対談相手の著書、寂聴あて書簡、写真とともに展示した。3階収蔵展示室では、宇野千代との対談を紹介し、宇野千代の「人形師天狗屋久吉」の原稿や初版本、特装本、色紙などを展示した。また、ロビーでは最近、寂聴のもとを訪れた江國香織、井上荒野、平野啓一郎、田中慎弥ら、若手作家とのプライベートビデオを上映した。 会期:平成28年4月23日～6月5日 39日間 入場者数:430名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,444,363	143,040

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
6	書道特別展 新収蔵 小坂奇石展 (特別展示事業)	平成25年に長女・小坂淳子氏から寄贈された奇石の書(50歳代から88歳までの作)39点を展示した。展示作全てを掲載した冊子を無料で配付、解説は奇石門下の東南光・木本南邨氏にお願いした。また会場では奇石の書論「奇石のことば」を配布した。さらにロビーでは、「小坂奇石 揮毫の姿」(11分30秒)を放映した。 会期:平成28年6月25日～8月7日 38日間 入場者数:1,176名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー	1,225,994	147,505
7	文学特別展 日常の彼方へ 森内俊雄と徳島 (特別展示事業)	徳島大空襲の体験を描いた芥川賞候補作「眉山」、鳴門を舞台にした「梨の花咲く町で」などの小説がある、徳島と極めて縁の深い作家・森内俊雄。徳島との関わりを中心に、この作家の魅力あふれる文学世界を、小説やエッセーからの引用文、直筆原稿、自作の俳句や詩を揮毫した書、愛用品などを通して描いた。また、ロビーでは森内氏が自身の作品を朗読する映像を放映した。さらに徳島新聞の連載エッセー「みちしるべ」も、ことのは文庫の1冊として出版した。 会期:平成28年8月11日～9月25日 41日間 入場者数:247名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,769,579	61,550
8	書道特別展 書家・教育者・研究者 田中双鶴の書業 (特別展示事業)	書家・教育者・研究者として多くの業績を残した田中双鶴(1912～2000年、阿波市出身)の書作品47点と関連資料約150点を展示し、書と業績を紹介した。書作品は漢字と仮名に分け、制作年順に展示した。図録には展示した全作品のほか、関連資料、教え子ら関係者にアンケート調査した「田中双鶴の言葉」、作品の解説などを掲載し無料で配付した。さらにロビーでは、作品を揮毫する映像「在りし日の田中双鶴」(13分)を放映した。 会期:平成28年10月1日～11月13日 38日間 入場者数:792名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	2,539,429	207,925

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
9	文学特別展 没後10年 詩人・茨木のり子の世界 (特別展示事業)	「現代詩の長女」と呼ばれ、胸のすくような日本語で凛としてうたいつづけた茨木のり子。詩稿、創作ノート、日記、先立った夫のために書かれ、没後に刊行された詩集『歲月』の遺稿などを展示し、詩の世界と女性として日々の暮らしを大切に生きた生き方を紹介した。また、ロビーでは、のり子の紹介番組「東海の肖像」(28分)を放映し、3階収蔵展示室には、のり子が自作「わたしが一番きれいだったとき」を朗読しているCDを聴くコーナーを設けた。 会期:平成28年12月17日～ 平成29年2月11日 42日間 入場者数:942名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・収蔵展示室	3,344,565	265,955
10	書道特別展 あふれる心情 會津八一の書 (特別展示事業)	歌人で東洋美術史学者、書家であった秋艸道人こと會津八一(1881～1956年)の書66点を展示した。新潟市會津八一記念館所蔵の代表作「独往」や「秋艸堂」のほか、ペンで書かれた歌集「自註鹿鳴集」の直筆原稿、作品の草稿として八一が書き留めた「様本」なども紹介。ロビーでは、八一の生前の映像である「會津八一博士自宅にて」(4分40秒)を放映した。 会期:平成29年2月16日～3月20日 29日間 入場者数:540名 観覧料:250円～510円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	3,397,591	153,780
11	書道企画展 夏の書道収蔵品展 中林梧竹の楷書 (企画展示事業)	“書聖”とうたわれた中林梧竹の楷書をテーマとした企画展。初公開となる4点をはじめ、拓本も展示し、計18点の梧竹の楷書を展観した。温かみあふれる書や格調高い書など、梧竹ならではの書の世界を紹介した。また、徳島県出身の書家・小坂奇石、貫名菘翁の作品(計5点)も併せて展示し、その魅力を紹介した。 会期:平成28年6月21日～9月28日 87日間 入場者数:1,741名 観覧料:100円～300円 会場:書道美術常設展示室	122,148	常設展観覧料に含む

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
12	文学収蔵品展 貴司山治と小林多喜二 (企画展示事業)	2015年2月20日付朝日新聞で新発見と報じられた「小林多喜二の遺体を囲む母セキたち」の写真を中心に、撮影者である鳴門市出身の作家・貴司山治と小林多喜二との関わりを紹介。プロレタリア作家として、当時多くの労働者を読者に持っていた貴司と多喜二。その直筆原稿や作品掲載誌、また『小林多喜二全集』編纂に関わったことが記された貴司の日記断片などを展示した。 会期:平成28年6月1日～7月31日 53日間 入場者数:1,161名 観覧料:100円～300円 会場:文学常設展示室	203,429	常設展観覧料に含む
13	書道企画展 第1回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	徳島県内の小学4年生から高校生までを対象に、応募のあった566名の中から264名を選考し、11月5、6日に本選を実施した。小中学生は各学年、高校生は各部門ごとにグランプリ、準グランプリ、金賞、銀賞、銅賞を決定し、12月3日から15日まで本選作品全てを展示した。また金賞受賞者以上を対象に12月11日に表彰式を実施した。 会期:平成28年12月3日～15日 11日間 入場者数:708名 観覧料:無料 会場:ギャラリー	745,029	0
14	書道企画展 「今年の一文字」展2016 (企画展示事業)	気軽に「書」に親んでもらう機会として、2009年から毎年開催している。2016年を振り返って、世相を象徴する漢字や、個人的に印象に残ったことを表す漢字一字を、ハガキに毛筆で書いた作品を募集した。601点(265字)の応募があり、すべての作品を展示した。一番多かった漢字は「新」。理由は「新しい生活を始めたから」「新しいことに色々挑戦できたから」などであった。昨年と同様、明るい漢字が多く寄せられ、応募者の前向きな気持ちがうかがえた。 会期:平成28年12月14日～27日 12日間 入場者数:376名 観覧料:無料 会場:1階ロビー	17,814	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
15	文学企画展 飯原一夫 古典を描く (企画展示事業)	郷愁を誘う独特の画風で徳島の古き良き時代や徳島大空襲の惨状を描き続けてきた徳島市の画家・飯原一夫。今回は「古事記」「万葉集」「徒然草」など、日本の神話や古典文学を題材にした絵画39点と、絵画に添えた飯原のエッセーを展示。また、民話などの小品24点をのぞきケースに展示した。 会期:平成28年12月22日～ 平成29年2月5日 33日間 入場者数:1,023名 観覧料:無料 会場:ギャラリー	399,385	0
16	文学収蔵品展 三田華子「阿波狸列伝」 (企画展示事業)	徳島市出身の作家・三田華子(1900～83年)は、「阿波狸列伝」や「徳島昔ばなし」などで、古き良き時代の徳島を描いた。有名な民話「阿波狸合戦」後の狸たちを描いた代表作「阿波狸列伝」は徳島新聞に連載され、人気を博した。本展では、「阿波狸列伝」の狸たちの奮闘ぶりを挿絵などとともに紹介した。 会期:平成29年1月24日～3月26日 54日間 入場者数:1,069名 観覧料:100円～300円 会場:文学常設展示室	51,547	常設展観覧料 に含む
	小計		17,260,873	979,755
	合計		20,597,621	979,755